

1 ゴミのはなし



↑東部清掃工場（枚方市大字尊延寺） 写真提供 株式会社ピッコロ社

ごみには、家庭などの日常生活から出るごみと、会社や工場などから出るごみがあります。これらはそれぞれ、処理の仕方がちがいます。わたしたちの暮らしのなかには、どのようなごみがあり、どのように処理しているのでしょうか。ここでは、こうしたごみについて、考えてみましょう。



↑ 穂谷川清掃工場
(枚方市田口5)

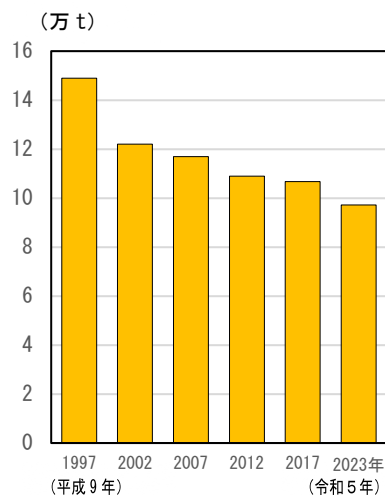


↑ ^{かわち}北河内4市リサイクルプラザ「かざぐるま」(寝屋川市寝屋南1)



↑ 枚方市のごみ収集車 (①3.5 トンじんかい収集車、②2 トンじんかい収集車、③ミニダンプ車、④2 トン平ダンプ車)

(1) 枚方市のごみ



↑ 枚方市のごみの量

わたしたちの暮らしが便利になるにつれて、ごみの量も種類も多くなってきました。枚方市の家庭から出るごみの量は、平成9年頃までどんどん増えていきましたが、ごみ袋を透明のものに変えたり、ごみの種類をきちんと分けるなど、みんなでごみを減らすように努力した結果、毎年少しずつ減ってきています。令和5年度に枚方市で処理したごみは約9万7,000トン、平成9年度と比べて約5万2,000トン少なくなりました。

枚方市のごみ収集のくふうとお願い



枚方市では、98 台のごみ収集車を使って市内のごみを集めています。安全で効率よくごみを集めるために、通る道や収集時間帯などをごみの種類ごとに決めています。決められたごみとちがう種類のごみが混ざっていると、収集できない場合やごみ収集車の火災の原因になるので、ルールを守ってごみを出しましょう。

燃えるごみ（一般ごみ）（週2回）		台所から出るごみ・ティッシュ 歯ブラシ・プラスチック製品など ※容器包装以外のプラスチックごみは一般ごみ
資源ごみ	ペットボトル・プラスチック製容器包装（週1回）	ペットボトル・食品トレイ・たまごパック お菓子のふくろ・レジ袋など
	空きかん・びん・ガラス類（月2回）	ジュースなどのかん・びん
	紙類（月2回）	新聞紙などの紙ごみ
そ大ごみ（申込）		なべ・食器・自転車・家具など



↑ ごみについての環境教育
ごみの収集作業の体験やごみのリサイクル
についてのお話を聞きます。

↑ 枚方市のごみの分け方

ごみを集めて処理するには、たくさんのお金がかかります。令和5年度の処理にかかったお金は、約 61億円で、ごみを入れた袋を 10 キログラムとすると、1袋の処理に約 630 円もの費用がかかったことになります。

会社や工場から出るごみについては、お金をはらって清掃工場に処理を頼んだり、許可をもった専門の会社に引き取ってもらったりして、会社が責任を持って処理しています。そして、集められたごみの一部は、資源として再利用されています。

さんこう

家電リサイクル法

いらなくなったテレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機は家電量販店等で回収し、電気製品を作った会社が引き取って、リサイクルをする国のきまりがあります。その費用はごみを出した人が支払います。



資源ごみ回収ボックスを利用しよう



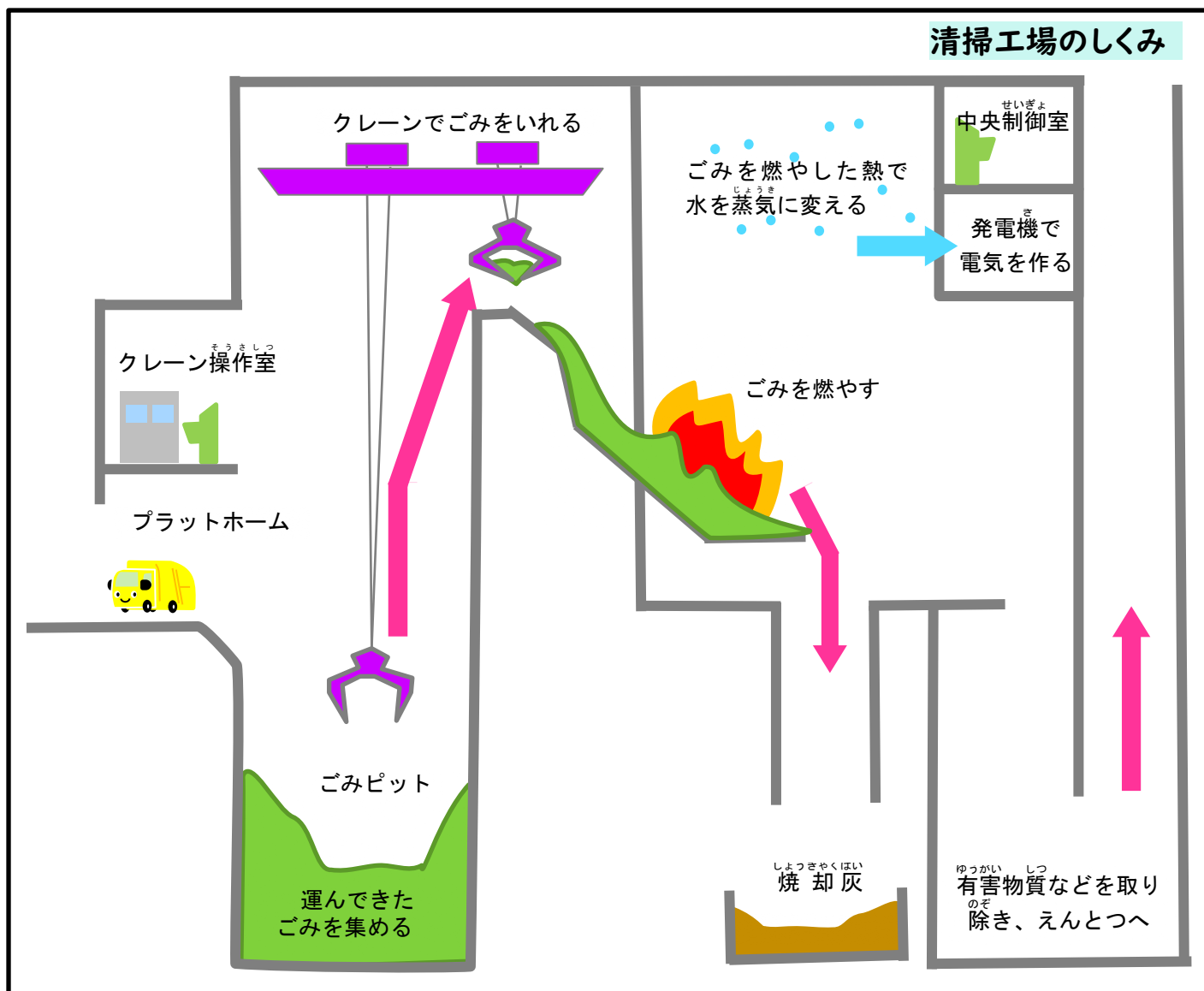
使用済小型家電

デジタルカメラや携帯電話などの小型家電には、鉄、アルミ、金、銅といったいろいろな金属が含まれています。これらの金属を再生利用するために、枚方市内の公共施設やお店などに回収ボックスを設置し、回収しています。

蛍光管・電池類（水銀使用廃製品）

市役所や生涯学習センターなどの公共施設や、民間の協力店舗などに回収ボックスを設置しています。蛍光管（直管型・環型・電球型）と電池類（乾電池（円筒形・角型）、ボタン電池）を回収しています。※充電式電池は回収していませんので、買ったお店で引き取ってもらいます。水銀を使った体温計や温度計、血圧計は清掃工場の窓口で回収しています。





↑ 枚方市の燃えるごみを処理するしくみ



↑ プラットホーム



↑ クレーン操作室

(2) 燃えるごみ(一般ごみ)のゆくえ

枚方市には、穂谷川清掃工場と東部清掃工場があり、家庭から出た燃えるごみを処理しています。市内で収集してきたごみを、クレーンでごみピットから焼却炉にいれて燃やしています。粗大ごみは細かくくだき、鉄などの燃えない物を取り除いてから、焼却炉に入れて燃やします。燃やしたときに出るガスは、有害物質などを取り除いたあと、えんとつから外に出しています。生ごみは、水分が多いと燃えにくいので、水分をよく切ってからごみに出しましょう。



↑ 焼却炉の内部



↑ 大阪湾フェニックスセンター

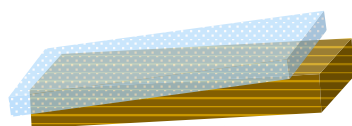
清掃工場でごみを燃やした後に残る灰は、有害物質が出ないように薬品で処理をした後、最終処分場（大阪湾フェニックスセンター）に運ばれ、うめ立て処分されます。このままごみをたくさん出し続けていると、やがて最終処分場はいっぱいになってしまいます。燃えるごみ（一般ごみ）を減らす取り組みは、とても大切なことです。

work



わたしたちが毎日の生活の中で、出すごみについて考えてみよう。

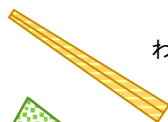
● 枚方市のルールでは、ごみはどのように分別するのだろう。●と●をつなごう。



使い捨て弁当箱

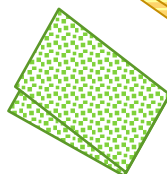
●

● 燃えるごみ（一般ごみ）



割りばし

●

● 資源
（ペットボトル・プラスチック製容器包装）

つつみ紙

●

● 資源（紙類）

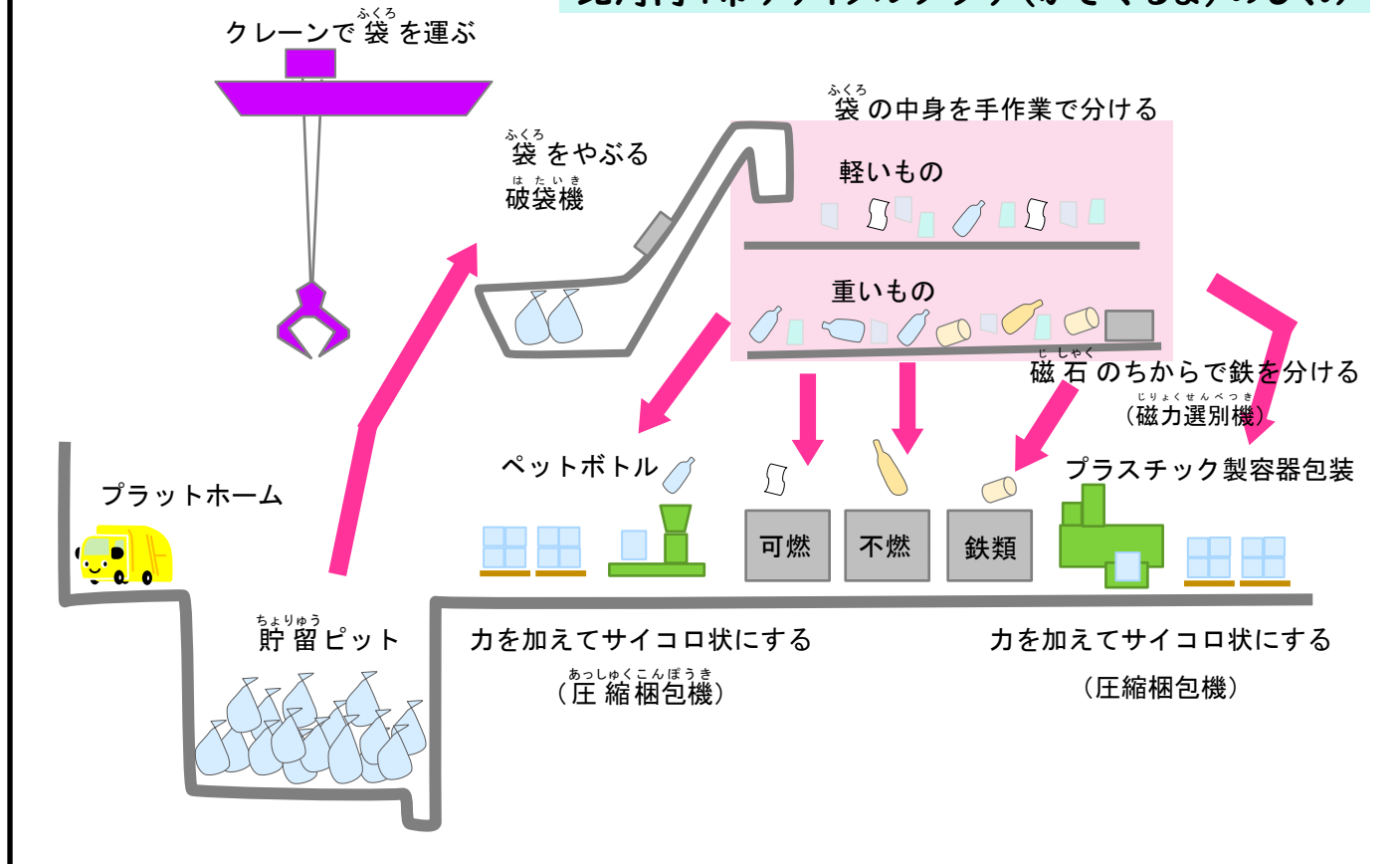
● 燃えるごみ（一般ごみ）を減らすために、私たちができることはなんだろう。

・ティッシュは必要な分しか使わない。

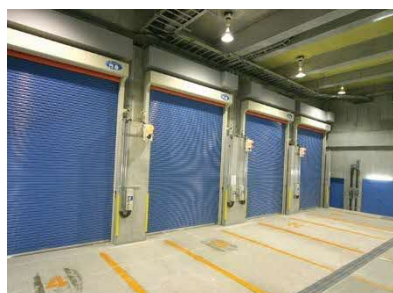
・

・

北河内4市リサイクルプラザ（かざぐるま）のしくみ



↑ 枚方市のプラスチック製容器包装ごみを処理するしくみ



↑ プラットホーム



↑ 貯留ピット

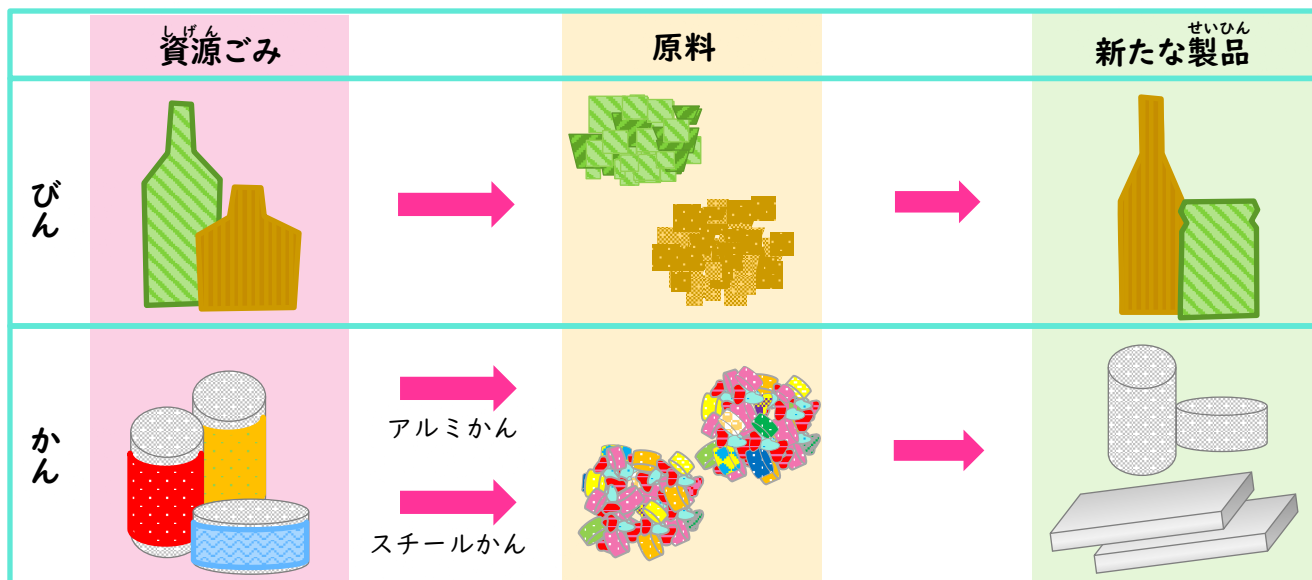


↑ 手選別作業室

(3) 資源ごみのゆくえ

① ペットボトル・プラスチック製容器包装

枚方市では、収集したペットボトルとプラスチック製容器包装を北河内4市リサイクルプラザ「かざぐるま」に運び処理しています。かざぐるまでは、手作業でペットボトルとプラスチック製容器包装、よごれたもの、まちがって出されたかん・びんなどに分け、鉄類は磁石の力を利用して取り除きます。そして、ペットボトルとプラスチック製容器包装は圧縮梱包機で押し固めてサイコロ状の運びやすい形にします。圧縮梱包されたものは、リサイクル工場に運ばれて新しい製品に生まれ変わります。



↑ リサイクルの流れ

② かん・びん・紙

収集した空きかんや空きびん、新聞紙などの紙類はリサイクル工場に運ばれています。空きかんは、アルミとスチール（鉄）に分けられて、新しい製品に生まれ変わります。特にアルミかんは、原料であるボーキサイト（こうぶつ 鉱物）から作るときの3%のエネルギーで新しいものを作ることができ、エネルギーの節約（せつやく）になります。びんは、そのまま使えるびんと、割れてそのままでは使えないびんに分けられます。割れたびんは、色ごとに分けられまた、同じ色のびんに生まれ変わります。細かく割れたびんは、道路の材料などにリサイクルされます。新聞紙などの紙類は、再生紙（さいせいし）のノートや本、トイレットペーパー、新聞、雑誌、ダンボールなどいろいろな紙製品に生まれ変わります。



↑ エコマーク

商品を作るときから捨てる時まで環境負荷が少ない商品についています



↑ グリーンマーク

古紙を原料に再生利用した製品についています



↑ 容器包装識別表示マーク

ペットボトル・プラスチック製容器包装
アルミ缶・スチール缶・紙製容器包装

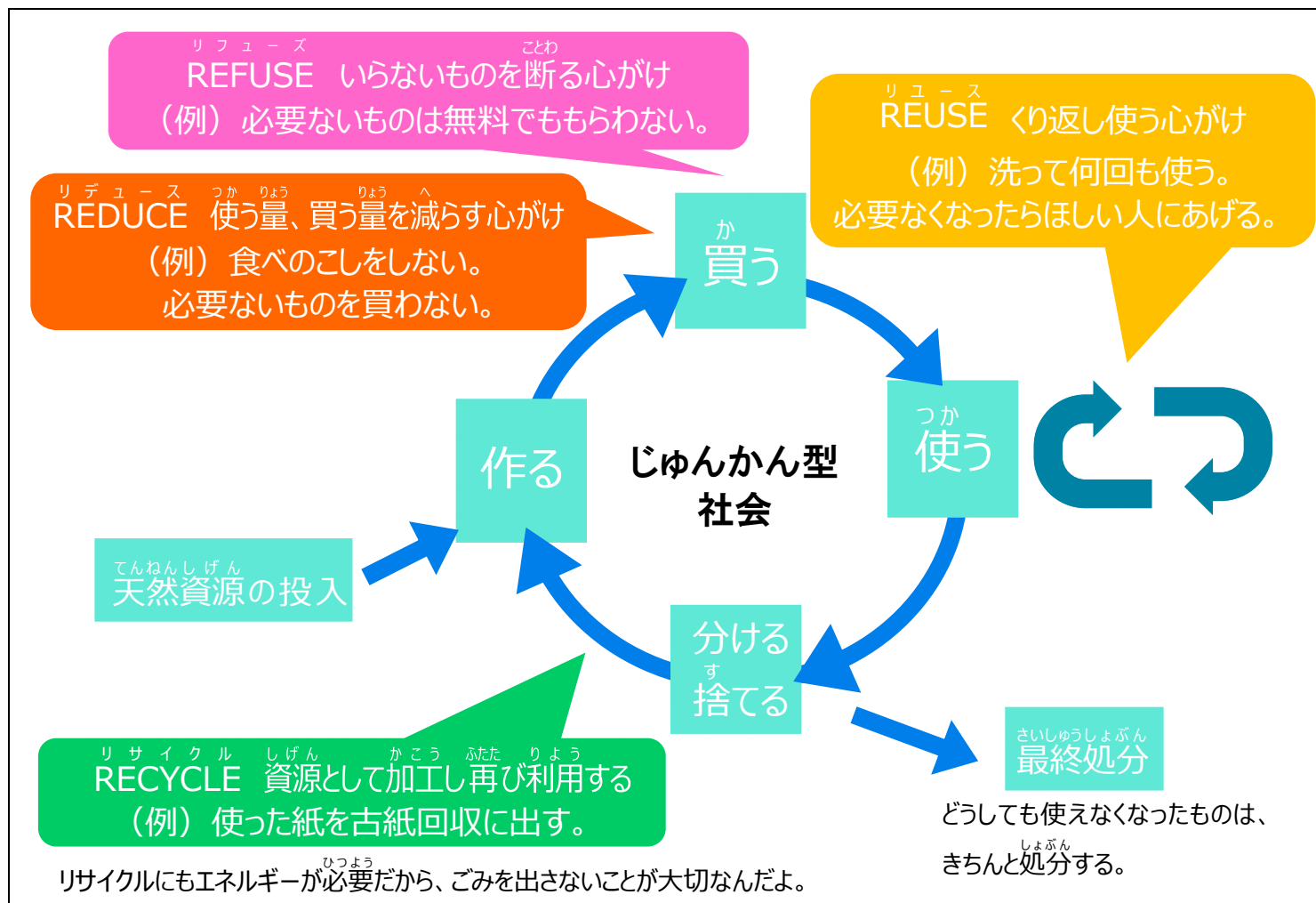


古紙回収ボックスを利用しよう



新聞紙・ダンボール・雑誌・雑がみ

穂谷川清掃工場と東部清掃工場に古紙専用の回収ボックスを設置しています。大掃除や引っ越しなどで一度に大量の古紙が出る場合や、回収日まで古紙を家に置いておけない場合などに無料で利用できます。



↑ じゅんかん型社会（4R）のしくみ

さんこう

3R

ごみをへらす取り組み、リデュース・リユース・リサイクルを3Rと言います。枚方市ではリフューズを加えた「4R」をすすめています。

食品ロス

食べ残しや賞味期限切れなど、食べられずに捨てられてしまうことを食品ロスと言います。ごはんを残さずに食べること、食べられる量以上に買わないことは、とても大切です。

(4) じゅんかん型社会とは

これまでわたしたちは、ものをたくさん作って、使い終わるとそれをごみとして捨ててきました。これを続けると、その原料もごみを処分する場所もいづれなくなってしまいます。そうならないため、ものを大切に使い、繰り返し使って、使い終わったあともリサイクルして、何度も利用することが大切なのです。何度も繰り返し使ってごみを減らす社会のことを、「じゅんかん型社会」と言います。じゅんかん型社会は、ごみを処理するためにかかるお金やエネルギーの節約にもつながります。ごみを減らすために4Rに取り組んでみましょう。

枚方市の取り組み

枚方市では、食品ロスを減らすために、「食べのこサンデー」に取り組んでいます。日曜日には冷蔵庫の中を確認し、ごみにしないよう食べきり、食品ロス削減を心がけましょう。

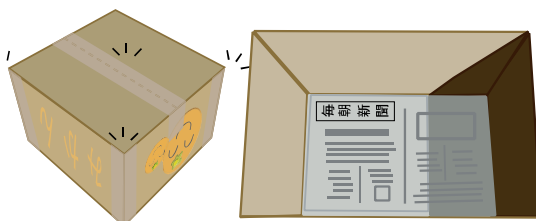
『食べる分だけ作る・食べる分だけ注文する・ごはんを無理なく食べきる』



準備 ダンボール箱(みかん箱くらい)、新聞紙(朝刊2日分)、米ぬか(堆肥の1/4程度)、水、虫よけ網(網戸の切れ端など)、布テープ、堆肥(約14kg(20L)、バーク堆肥(腐葉土もOK)、スコップ、温度計(100℃まで測ることができるもの)、ポット苗用トレー

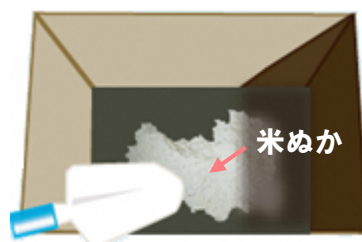
1

ダンボール箱を強くするため、角とつなぎ目を布テープで固定して、底に新聞紙を敷く。



2

堆肥をダンボールに入れて、米ぬか(堆肥の1/4程度の量)を混ぜる。空気もいっしょによくかき混ぜる。

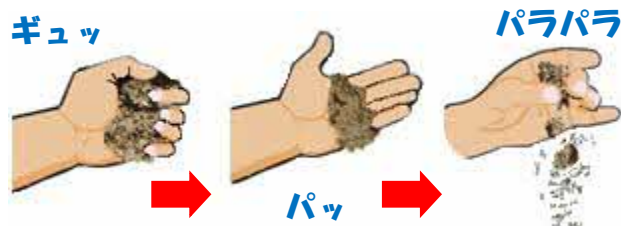


※米ぬかはひとつまみ残しておこう。

3

しめり気をあたえる(45~60%の水分量)。

※手でぎゅっとにぎったら固まり、かるくさわるとくずれる程度



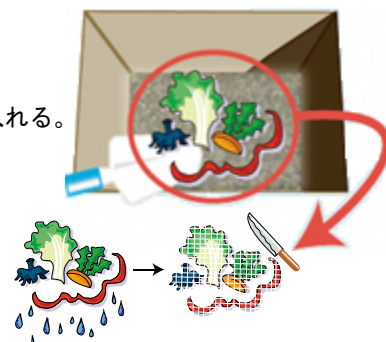
4

生ごみとひとつまみの米ぬかを入れる。

※混ぜたたい肥に穴をほり、生ごみと米ぬかがよくからみ合うように混ぜ入れる。

1回 500~600g程度(三角コーナー1杯分)

※生ごみは水分をよくきり、細かくきざむと微生物が分解しやすい。

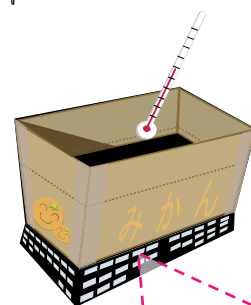


5

温度計を入れておく。(40~70℃で微生物がよく働く)

※ダンボールの下に苗用トレーなどですき間をあげ、

虫よけ網をセットして、雨の当たらない所に置く。



◆ポイント

- よくかき混ぜる(空気)
- しめり気を与える(水分)
- 温度が上がらない時は、米ぬかを多めに入れる。
- 水ではなくお湯でしめり気を与えても良い(温度)

1か月ほど置いたあと土を混ぜて、畑やプランターで野菜や草花を育てれば、ごみの減量や自然のつながり(じゅんかん)が体験できるよ!!